

文教厚生委員会会議録（要点筆記）

平成24年8月2日（木）

午後1時30分 開会

○小出義一委員長

ただ今より、文教厚生委員会を開会します。

本日は、お忙しい中、あさひ保育園の理事長榊原千恵美様とはとぽっぽの会代表上杉直美様にご出席していただいております。よろしくお願いたします。市内視察の時に子育て支援の拠点として児童センター等へ伺って実情等把握させていただきましたが、本日はその内容を引き継いだ感じで現状、課題についてという点と現場で子育ての支援に携わってみえるお二人から現状についていろいろ話を伺って今年度の委員会のテーマをより一層掘り下げてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

初めに、閉会中の調査事項についてを議題とします。（1）半田市の子育て支援の現状及び課題についてを行います。当局から資料が配布されておりますので、説明をお願いいたします。

○大坪子育て支援部長

皆さんよく耳にされる言葉で少子化であるとか核家族化、或いは地域との繋がり希薄化、ひとり親世帯の増加といった子育て支援の課題が現在あります。今日は、半田市の子育て環境の現状について、統計数値を基にまとめたものを資料として提出させていただきますので、担当課長から説明させていただきます。

○江原子育て支援課長

【資料の基づき説明】

○小出義一委員長

ありがとうございました。地図も作っていただきまして、より一層分かり易くなっていると思えました。ご質疑等ありましたらお願いたします。

○山本博信委員

児童虐待通告件数ですが、1人の児童が重複して通告されていることも有り得ると思いません。件数は61件ですが、人数は何人でしょうか。

○江原子育て支援課長

同じ子どもが2回、時が違って通告されれば、1件、1件でカウントしております。61件の通報をいただいた子どもの人数は今数字がございませんので、後ほど回答させていただきます。

○山本博信委員

問題は、1人の児童で何回も通告があるということが問題なのかなと考えていますので、その点も考えながら教えてください。

○久世孝宏委員

この資料から現状と課題をどのようにとらえているか教えてください。

○江原子育て支援課長

端的に申し上げますと、少子化、核家族化というものが進んでまいりまして、安心して子どもを産み育てる環境がなかなか難しい状況になっています。これをなんとか改善していかないといけないと思っております。

○久世孝宏委員

少子化、核家族化が進んで来ている。安心して子育て出来る環境ではないというのは、相談する人がいないとか、その間のところをどのようにとらえているか教えてください。

○江原子育て支援課長

核家族化で言えば、今まで子育てというものが、親から子へノウハウの伝授がされていたものが、されにくくなっている。子育ての負担という事で言えば、家族の中でいろんな人達が負担して軽減されていたものが、核家族化になればその負担があがって、不安や負担が増していると思っています。少子化で言えば、子ども達の交流する機会が減るということで、遊びの中から子ども達の社会性が育まれにくくなったりというようなことが生じると思っております。

○久世孝宏委員

そういうようにとらえているのであれば、そういうことが分かる資料がここに出て来てても良いと思いますが。相談件数も見方によっては横ばいなわけです。この面接相談件数は、立ち話的なことでもカウントするようになったと市内視察で言っていましたが、その影響で増えているという気がしました。核家族化、少子化は一般的に言われていることですが、それを導き出すのであれば、そういう資料をぜひ付けていただかないと今日の意味が無くなると思います。

○江原子育て支援課長

次世代の育成支援の行動計画を策定させていただきました。その時には15年度と20年度の未就学の方と小学校の方、保護者の方など多くの方にご協力いただいてアンケートという形で膨大な調査をさせていただきました。それから時間も経ってしまして、すべての子育て家庭ということだと掌握が出来ていない部分もありまして、今回については、どちらかと言いますと子育て環境の現状と推移ということに主眼をおいて説明させていただきました。また、見えるものの資料を出せる範囲で出して行きたいと思っています。よろしく願いたします。

○中村宗雄委員

子どもを産み育てて行くのが難しい現状や課題があるという話ですが、それを解決するために施策があるわけです。それが地域子育て支援拠点事業へ繋がっていくという筋書きが書いてあるうえでおっしゃっているのか、それとも全く関係無くて、子育て支援というものは、ただ、拠点を増やせばいいという事では無いということをお願いしたいのか、その辺りを明確に説明をお願いします。

○江原子育て支援課長

どちらかと言いますと、前者のところでありまして、それがすべてではありませんけれど、そうしたものを今回調査研究いただくということですので、その観点に従って出させていただきました。

○小出義一委員長

ほかにないようですので、これで質疑を終わります。

それでは、(2)地域で子育てを支えていただいている方々との意見交換についてを議題とします。

先ほど、ご紹介しました、あさひ保育園理事長の榊原千恵美様、はとぽっぽの会代表の上

杉直美様に来ていただいておりますので、ご紹介しながら進めてまいりたいと思います。

【委員長から略歴について説明】

○榊原あさひ保育園理事長

現在、社会福祉法人太陽の理事長をしまして、毎日あさひ保育園の園長をしております。榊原千恵美と申します。よろしくお願ひいたします。

子育て支援の現状、課題について現場の生の声として参考になればと思いお話をさせていただきます。たんぽぽ保育室の設立のあたりから簡単にお話をさせていただきます。きっかけは半田市がやっていた乳幼児学級というものですが、そこで同じ席になったお母さん方で、子育てサークルを作りました。自宅で子育てサークルをして子どもを見る人、親同士子育ての悩みを話し合う人というように分けて、自主保育園みたいな形で何年か続けて来ました。第3子を産んだ頃は皆が子育てを終わっており、どうしようかと思ひ託児所を開けば子ども達が来てくれるかなという単純な理由で託児所を始めました。そこでの単純な悩みとしてご飯を食べない、夜寝てくれない、泣いてどうしようもないなどお母さん達の素朴な悩みですが、子ども達を受け入れている時にそんな悩みを聞く中で、ご飯が食べられない、健康で空腹になればご飯は食べられる。結構みんながお菓子を食べさせている。中には、お菓子を食べていませんというけれど、よく聞くとご飯のちょっと前に飲み物を与えましたとかがある。子育てとして健康の空腹を用意しましょうとやっているうちに、食べられるようになりました。座って食べるようになりました。という声が1人2人増えて来たというたんぽぽの経歴があります。また、私達が子どもの頃は、子ども同士で夕方まで遊んでいるという子ども社会があった。そんな中で子どもの歓声が聞きたいということで小学校の学童保育を立ち上げました。その後凄く増えて来てしまったので、子育て支援課や皆さんに相談して、第二学童ということで、21年にあさがおクラブを設立しました。その中で若い職員達もどんどん育っていく、若い職員が育っていくためには、運営基盤がしっかりしていないとダメだと。認可外はそういった補助がっさいありませんので、せいぜい保護者からもらっても5～6万円。その中で職員の手配をしたり運営していくということで、やっぱり認可をとろうと平成22年に社会福祉法人を立ち上げて、あさひ保育園を設立したという経緯に至ります。子育ての現状ということで考えていくと、子育てというものは日々移り変わるものだということを実感します。子どもが0～2歳の頃には、保健所のいろいろな指導に興味を持って聞いていました。長女の時には、無理やり頭ごなしに言うのではなく、子どもの意見を聞いて、納得するようにお母さんは取り組んでください。という指導でした。そういう指導をしていると何年か経って、今度はいう事を聞かない子どもが段々増えてきた。これはまずいということで、ダメなものはダメとはっきり伝えましょうと3人目の子どもの辺りではそういう指導になっていました。添い寝がダメと言われてたり、添い寝しましょうと言われてたり、昔は抱き癖がつく、今は泣いたら抱いてあげましょうと指導の中でお母さん達が何を指針にして子育てをしたらよいかという、凄く戸惑っているという声をしみじみ感じました。

手取り足取りというわけではないけれど、こんな時どうしているか、こういう場合はどうかとか、毎日の暮らしの中で、ふっと聞いてくれる人がいないとどうしても漏れていってしまう。ちょっとしたことでお母さん達の悩みが解消されていったりとか、お母さん自身が友達を作っていく能力があまり育っていない。その地域で自分の居場所を作っていくというのは、培われたものがあるのでしょうか、私達の世代ではお嫁に行ったらそこで自分の世

界を作っていくというのはあるのですが、なかなか今の若いお母さん達は、そういうことが出来るとは限らない。公園もわざわざ知らない人がいる遠い公園へ行く、隣に公園があっても、人と係わるのが苦手なので、子どもは窓から公園で遊んでいる子を楽しそうに見ている。お母さんは行きたくないから行けないので、たんぽぽさん預ってください。うちの子を遊ばせてくださいという悩みを多いです。核家族ではなく祖父母が同居している家庭が良いかというと、あきらかに祖父母が子育てをしていた時と今は時代の背景が全く違うということがあります。私が子育てをしている時は、3歳時神話というものがありまして、3歳までは、親の手で育てなければダメだと言われていました。結構、根強く言われていました。現在はどうかだろうと考えてみると、正直私の主観なんですけど、反対に3歳までに子ども同士のコミュニケーション能力を身につけておかないと4歳、5歳、6歳では遅いと感じるほど、非常に0、1、2歳のコミュニケーション能力は弱っていると感じます。何故かと言えば、兄弟が少ない、保育園でもそうですが、ゴールデンウィーク明けは、やっと集団生活に慣れてオモチャの譲り合いが肌で分かってきた子が、王子さま女王さまになって戻ってくると言われるくらいとても大変な状態になります。兄弟やいろんな中で育ったり、一人っ子だったとしても、子ども同士のいろんなふれあいがあって暗黙でお互いが譲り合う環境がない。昔の子育てと今の子育ての環境とは、もう比較にならないほど世の中は移り変わっているということは、凄く大きな問題。昔はお母さんがすべてやってきたから、若いお母さんに対して当たり前だという気持ちで見えていくとすると、若いお母さんは潰れていってしまうのではないかな。その時その時の保護者の要望に答えて移り変わって来ますが、本当に子どもにとってどうかという所を外さずに現状を踏まえていく支援が必要だと思います。そうして見ると、子育て支援の拠点を増やしていくということは、身近にずっと子どもの所に駆け込める場所があるということで、必要ということは第一にある。だけど拠点を作れば良いというものではない。今のお母さん達の現状を理解したうえで、ソフトの部分を支援する人材が必要だということは痛切に感じます。いじめの問題が報道されていますが、コミュニケーションを学習する機会が無い。ゲームやテレビで遊べてしまうとか、地域の中で子どもの遊ぶ歓声が聞こえない、これに危機感を感じて学童を立ち上げるきっかけになりました。今の子ども達の問題という所でお話をさせていただいておりますが、今の子ども達の問題とその子ども達が既に若いお母さんになって子育てをしているという現状として、私達は、子どもを育てるとともに、若いお母さん達を育てるということで考えていかないといけないと思いました。最後に行政に期待するところということで、自分にとっては行政の方の力があって今あさひ保育園等がやれると思います。ただ、行政は公の保育をする場所として考えると私はたんぽぽは民間でくまなく蟻の巣巡るような感じで地域のお母さん達と密着してやって来ました。こういう仕事というのは、民間の仕事だと思います。発達障がいの子の治療的な専門的なものとか、子育て支援の受け皿を作るとか、虐待児童の緊急一時保護の体制など、民間では手の届かない部分をしっかりキープしてもらって、お母さんたちと細かい地域のやり取りすることや細かいいろんな情報の収集の所は、民間に任せてと最大限、公の保育としての力を発揮していただきたいと思います。半田市には、プレママクラブさんやわたぼうしさんとか民間で活躍している人が本当に沢山います。そういう人達の細やかな部分をしっかり活用してもらって行政の方に関しては、大きいところの支援、受け皿、民間では出来ない専門的な部分というのを担っていただけると嬉しいと思いました。

○小出義一委員長

ありがとうございました。地域の子育てを支えていただいたお話を伺いました。ありがとうございました。ご質問がありましたらお願いします。

○山本博信委員

お母さん達のほとんどが信念もなく自身もなく子育てしているという話だったと思いますが、中には信念も自身もしっかりもって子育てしている方もみえると思いますが、そういう方はどんな子育てをしているのでしょうか。

○榊原あさひ保育園理事長

私自身もまだ本当に手探りで、子どもが学校を卒業したら終わりくらいに思っていました。学校を卒業したら就職という問題もあるし、結婚もあるし結婚したら家庭を作っていくという所もありますし、その子が本当に独立するまでは、何とも言えないと思います。子育てを完璧にやっている親はいるのでしょうか。親というのは愛情は深いですが、愛情が深いことと、子育てがしっかり出来ることとは別だと思います。能力的なことが育っていない場合、いくらそのお母さんが100%頑張ってもやりきれない部分が残っているとすると援助をしていくしかない。援助するには、そのお母さんをよく観察して理解していく、理解したうえでどこが手伝えるか細かく手探りで一緒に探ってしかないと思います。お母さんが育つという部分では、すべて援助するのが○ということにはならないですが、そういうことで気持ちにゆとりを持って、お母さんとして育っていくというのもあると思います。完璧な親はいないと思います。

○山田清一委員

行政に期待することということで、話がありましたが、半田市の子育て支援の現状と課題をどのようにとらえていますか。

○榊原あさひ保育園理事長

あさひ保育園の園長になって、一番感じる事なんですが、半田市で園長会に出ていると20何年のプロフェッショナルな園長さんがそろっています。いろいろお話をしてくる中で、保育に関してのプロフェッショナルがそろっていることを凄く実感します。だから子育ての細かい部分で頭を悩ませていることが、勿体ないような気がします。そういうことは、民間の私達でも出来る。園長先生はもっと専門的な発達障がいを受け皿だとか、公としての保育に徹する。細かい保育園の部分は民間に委託していくとか、すぐには無理かも知れませんが、考え方の方向としては、行政は公の保育に徹して、細かいことは、民間に任せるという方向性を定めていくことが必要な時期ではないかという感じがしています。

○山田清一委員

0、1、2歳の保育をやられています、その0、1、2の課題があれば教えていただきたい。

○榊原あさひ保育園理事長

うちが0、1、2歳だけの保育園なので、よく見えてくる所はあると思いますが、0、1、2は凄く大事だと思います。子育てが初めてのお母さんがほとんどなので、本当に素直です。分からなくて自身が無いから凄く聞いてくれます。学童のお母さんは、なかなか問題点の所まで下がっていきませんが、0、1、2歳というのは、支援もいる親も子も本当に大事な時期だと思いますので、大事に固めていただきたいと思います。

○山内悟委員

豊かな経験を聞かせていただいて本当に面白いお話でした。自らの子育ての経験も保育園や学童保育の実践での経験など興味深い話を聞かせていただきました。その実践を通じて、半田市の相談件数や電話相談件数などの数字がありますが、榊原さんからみて多いと感じますか、充分手が届く範囲での反映だと思えますか、またもっと充実した方が良いと思えますか。

○榊原あさひ保育園理事長

通告だとか電話相談というのは、何年か前から通告義務というものが出来て、非常に世の中が通告しやすくなって来て、相談件数が増えていることはあると思います。相談の中身には、直接言えばいいのにといい中身もこの件数の中にはあると思います。それだけお隣さんとの人間関係が希薄になっているものの現れでもあるかと思えます。何よりも子どもを守るということを最優先に考えるのであれば、通告はしやすく受け止めてもらいやすい形が良いと思えます。

○山内悟委員

榊原さんが実践の中でいろんな件数と比べて、多いと思えますか少ないと思えますか。

○榊原あさひ保育園理事長

少ないと思えます。まだまだ沢山あるだろうし、ここに電話をしようと思うことは、お母さんがつまっている状態で日常生活の中では、こんな時どうしたらいいのだろうというレベルのことは、もっともってあって、直接それが大きな問題には、結びつかないことかも知れませんが、そういったことを考えて相談したり話したりするという事は確実にお母さんの子育てのプラスになりますし、そういう意味では電話の相談の件数というのと私が現場でやってきてお母さんの不安を聞き出して援助することは、ちょっと質が違うような気がします。相談をするまでも無いことの中にそのお母さんの隠れた部分があるわけで、そういうものが見てとれる隣のおばさんとでもいいでしょうか、一緒に子育てをしてくれる理解者、拠点が必要と思えます。

○山内悟委員

子育ての拠点は各小学校区にあったほうが良いと思えますか。

○榊原あさひ保育園理事長

はい。それはそう思います。今、児童センターとびよびよクラブ、いろんなクラブが入って一緒に入ってやっているんですが、児童センターや各保育園の隣接してとか各学区により所みたいところがあつた方がいい。ただ、問題なのは中身のソフトの部分で、決して作ればいいというものでも無いとは思えます。

○中村宗雄委員

行政に期待するところと言われた、公のする役割と民間のやる役割と違つと、もっと細かいことを民間がやって、行政は民間の出来ないことに特化していくとおっしゃられましたが、今の半田市の現状で、行政側がどんどん解放すると言つた時に民間の担い手はいるのでしょうか。それともまだ、そこまでいっていないという話なのか、私見でかまいませんので、教えてください。

○榊原あさひ保育園理事長

今からすぐそうしていかうと言つて、すぐなるものではなくて、民間も育てて行かなけれ

ばならないし、でも、門戸を開いて欲しいという意味でそうならいいということです。いるかないかと言ったら、私ならやりますけれど、他の人がどうかというとは分かりません。

休憩 午後 2時35分
再開 午後 2時40分

○小出義一委員長

委員会を再開します。

続きまして、上杉さんにお話を伺ってまいりたいと思います。

【委員長から略歴について説明】

○上杉はとぼっぼの会代表

よろしくお願ひします。私は昭和62年にはとぼっぼの会を設立しましたが、大義名分があったわけではなく、成岩児童センターの幼児教室へ入りたいたいと思い、娘を連れて8時30分に並びました。状況がわからず後ろの方で並んでいましたが、5時から並んでいる人が見えて8時半では入れるわけがなく、それが2年続きまして、面倒だから自分も資格があるし経験もあるので、友達にも声をかけて最初は14～15人で公民館を借りて会費を皆で出し合いながら、順番におやつを買いに行きながらという形で簡単に自分の子どもを遊ばせるために立ち上げたのがはとぼっぼの会です。児童センターへ入れない子ははとぼっぼの会へおいでという形で市内6か所の公民館で、その当時の広報広聴課長さんにつめよって、公民館を何とか借りたいたいということで始めました。まだ、子育て支援という名前が無いころ、子どもを育てるための手助けをする、というような言葉の中から始まって、それからずっと小学校PTAの母代、中学校の母代をしまして、その時に市P連、県P連の大きい役もやらせていただく中で、県のPTAが抱える問題、そして地区が抱える問題、地域の中でどう立ち回っていったらよいかという行政の係わり、いろんな問題点で皆さん一生懸命になられる方との出会いがありました。学校側PTAと地区とつないでいきたいと思って教育懇話会を当時の会長と一緒に立ち上げました。はとぼっぼの会で親子子育てサロンを立ち上げまして、地域の子ども地域で育てるということをスローガンにいろんな係わりの中でやってきました。いろんな係わりの中でやってきて、主任児童委員という民生児童委員もやっております。3区のコミュニティー推進協議会の会計、副会長、というものをやって3区の中での子育て支援としての意識も皆さんに高くもっていただくように、一生懸命走り回って来ました。3区の中では、役員さん達は年齢的に見ても子育ては奥さんがやるのが当たり前、お父さんがお金を稼いできてお前達を食べさせてやっているという世代なので、子育て支援についての理解を凄く厳しかったです。今は甘えさせ過ぎているという意見がある中で、子育て支援部会を立ち上げるのに、相当役員さん達とやり合いながら、4、5年前に立ち上げて現在に至っております。平成24年の4月から、紆余曲折ありまして、花園小学校の中の放課後子ども教室「花・はなルーム」といいます。そして青山児童センター「花はな」、そして「花はなわんぱくカップ」、児童センター、子ども教室、学童保育この3つを連携させて、初めて3区の子育て支援、地域の子どもは地域で育てるということが、全う出来るかなという第一歩を今踏み出したところなので、1学期がようやく終わりました、他の所と比べるとはありますが、センターに来る子も増えておりますし、学童の子達も楽しいからといって来てくれます。地域の人達がいっぱい遊びに来てくれます。地域をあげての子育て支援ということで、

ひとりひとりの子どもを大事にするということも凄く大事なんですけれど、ひとりを大事にするから地域があるのですが、とにかく地域で皆まとめて面倒見るといふ部分の所が青山児童センターです。最近では3世代交流ではなくて、4世代交流くらいの形で楽しみながら来ております。今度、学童保育におきましては「花はなわんぱくカップ」は、保育料をいただきますので、3区が直接運営することは、いろいろ問題がありますからNPOを立ち上げます。その中で相談役として、中学校、小学校の校長先生にお願いをしたら、快く子ども達のためなら何でもやると言ってくださって相談役になっていただきました。現在進行形ではありませんが、楽しみながら地域の皆さんとやっていきたいと思っております。

○小出義一委員長

はい。ありがとうございます。地域ということにかなりウェートを置いた活動をされてみえるかと思っております。ご質疑等のある方お願いします。

では、私の方から、昭和62年から、一世代前から活動を続けてみえて、当時と現在とで変わって来た顕著な例がありましたら、お聞かせいただきたいと思っております。

○上杉はとぼっぼの会代表

もう実際26～7年になります。初めの頃は私もお母さんとして同世代だったです。昔はこういう会があってすごくありがたいです。皆と係わり会えるのがとても嬉しいです。ありがとうございます。児童センターに入れなかったのが、ここがあって助かりました。という感謝の言葉を沢山いただきました。けれど、良いとか悪いとかではなくて、最近のお母さんの傾向として、あそこは先生がイマイチ、ここは先生のやり方が上手いから来る。あそこは会費取っているから、無料だからというような、子育て支援が充実して来てお母さん達が選べるのは良いことですが、当たり前になってしまっているのが、私の中では、凄く怖い事だと思います。過剰サービスをしすぎると親が自分で育てていく力を無くしてしまう、放棄してしまう所があるので、これは問題かなと思っております。貴方が生んだ子です。基本的に貴方が育てるのという所をしっかりと分かったうえで、行政からのサービス、ボランティアからのサービス、その辺りをわかってもらって、ありがとうございますという気持ちを忘れないで子育て支援を受けてもらえるならいいですが、あれも無料にしるこれも無料にしる、あそこはおやつが出ないというような愚痴を聞くので、気分を悪くさせない程度に貴方が生んだ子だから、お母さんが意識を持って、子どもは貴方のそういう言動を聞いているよという話をしながら話をさせていただいています。その辺が少しずつ変わって来ている。支援をする人達も比べられた時に、妙なライバル意識を持ってしまいますが、少し意識を持って冷静に認め合いながら、自分達ではなかなか出来ないの、その辺りを行政の方が指導を入れていただけるとありがたいと思っております。

○山本博信委員

少子化傾向に歯止めをかけるには、どうしたら良いか。そういう思いがありましたらお願いします。

○榊原あさひ保育園理事長

子育てって本当に楽しいと、自分ひとりで考えているとつまっていくけれど、実際、私もいろいろアドバイスをしてもらって自分も成長した。本当に子育ては楽しい。それがしっかりと伝わったら絶対産みたくなる。どうしたらしっかりと伝わるのかを凄く思います。伝え続けて行きたいと思っております。

○上杉はとぼっぼの会代表

私もぼっぼを立ち上げた時に、子育ては楽しまなきゃ勿体ないという妙なスローガンを立ち上げました。赤ちゃんが勝手に貴方の所へ来たわけではなくて、貴方をお母さんとして選んで来てくれた。だから一生懸命、一緒に育って行こうと話をします。子どもってかわいいし楽しいしという所を教えてあげたいと思いますが、これは主観の問題で、この子がいるから私の自由は奪われたという人もいましたけれど、今はお婆ちゃんをしていて孫を楽しんで育てています。子どもを育てるのは結構大変ですが、孫を育てるのは楽しいそうです。それを将来見据えて、楽しいお婆ちゃんになるというのも良いと思います。

○小出義一委員長

ありがとうございます。他にはよろしいですか。

【「なし」との声あり】

子育ては楽しい、楽しんでいかないと、という所が欠落しているのかなという大きな課題を再認識していただいたと思います。

本日、お忙しい中、お二方においでいただきまして、当委員会の閉会中のテーマについて、貴重なご意見、お話を聞かせていただきまし。本当にありがとうございました。

しばらく休憩します。

休憩 午後 3時00分

再開 午後 3時05分

○小出義一委員長

委員会を再開します。

当局からの資料説明と併せて、地域で子育て支援を実践してみえるお二方のお話を伺って現状、問題、課題の認識の共通のものが少しずつ出来て来たのかなと思います。

(3) 半田市子育て支援に関する意識調査(案)についてを議題とします。当局からの説明をお願いします。

○江原子育て支援課長

【資料に基づき説明】

○小出義一委員長

先日の市内視察の車の中で、ご要望があってそれについて部長から調査しましょうかと言っていたことを実現しようとなったものであります。

ご意見等ありましたらお願いいたします。

○山内悟委員

アンケートぜひやってください。ただ、調査方法なんですけど、子育て支援センター、児童センターや子育てサロンの利用者が対象なんですけど、こういう場所に来ない人をどうするかという対策が必要だと思えますが、1歳半健診だとか必ずその年代の人が来るだろうという場も利用しないとこういう場所に来ない人の方が心配のような気がするのですが。

○江原子育て支援課長

まず、今回につきましては、現に利用されてみえる方の満足度だったり意識調査を行いたいとするものです。委員ご指摘のとおりこういう施設に来ることができない人、そういう人達をどう把握して道筋を作っていくのかというような課題は認識をしておりますが、今回については、現に利用をされている方に調査をしたいという内容であります。

○中村宗雄委員

基本的なことなのですが、これを委員会に諮ってアンケートをしてしまっても良いものなのかどうか、本来は、市民に対してとるアンケートなので、全協か何かで共有してからでないところの委員会だけで良いのでしょうか。

○大坪子育て支援部長

全協でよくやるのは、パブリックコメントをとる場合に手続きを定めたものがあるますので、それに基づいて全協で報告をしておりますが、この種のアンケートについては、特に全協で説明しなくてはならないことではやっていないと思いますし、幼保一体化検討会議でもアンケートをとっていますが、特に全協では説明していません。

○小出義一委員長

他にないようですので、この件については終わります。

次に、(4) 行政視察についてを議題とします。

先ほどの当局からの説明また意見交換で委員会として、課題や問題点について共通の認識が出来てきたと考えております。その改善策や解決策、また親御さん達が少しでも安心して子育てが出来る環境づくりについて委員会として、先進的事例を調査して進めてまいりたいと思っておりますが、県内、県外ということであると思っておりますが、日程の関係で県外視察について計画を立てて行きたいと思っております。県外視察は10月を予定しております。9月は定例会もありますので、相手方も含めてなかなか調整がとれない時期になりますので、視察先の行程等について、8月中に決めていきたいと考えています。

しばらく休憩します。

休憩 午後 3時15分

再開 午後 3時54分

○小出義一委員長

委員会を再開します。

県外視察については、前回までの委員会で、10月ということにしておりましたけれど、調査目的と課題についてもう一度、皆さんの意見を集約しなおして、その課題に則した調査先を選定するという事、また、アンケートもその課題に沿ってアンケートを実施していただくような、進め方をしてまいりたいと思っております。よろしいでしょうか。

【「異議なし」との声あり】

それでは、日程については、分科会を開催する日と合わせてまいりたいと思っております。

しばらく休憩します。

休憩 午後 3時55分

再開 午後 3時56分

○小出義一委員長

委員会を再開します。

平成24年度事業評価についてを議題といたします。7月24日に開催されました委員長連絡会議におきまして、説明を受けました事項について報告します。

【資料に基づき説明】

しばらく休憩します。

休憩 午後 3時58分

再開 午後 4時18分

○小出義一委員長

委員会を再開します。

文教厚生委員会分科会を設置し、事業評価を実施することでよろしいでしょうか。

【「異議なし」との声あり】

今後、文教厚生委員会分科会で、事業評価を実施してまいりますので、よろしくお願ひします。事業の選定をする分科会を開催する日には、8月21日午後1時30分議会議室。この事業選定にあたって17日の5時までに事業選定の所定の用紙に書き込んだものを事務局に送付していただきたいと思ひます。次に、事業評価を行う候補日を10月2日の9時30分、10月3日の9時30分、10月12日の9時30分からの3日間としたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

【「異議なし」との声あり】

ありがとうございます。それでは、以上の日程で進めてまいりたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

その他、何かありましたらお願ひいたします。

【「なし」との声あり】

ないようですので、これで委員会を閉会します。長時間に渡りお疲れさまでした。

終了 午後 4時20分